

江別市立病院 平成30年度 決算概要

収益は、入院、外来ともに診療単価が前年を上回ったものの、患者数が前年を大幅に下回ったことから、病院事業収益全体で前年度から約7億円の減収となりました。

費用は、病棟再編などにより給与費が縮減し、診療材料や医薬品の価格削減に取り組みむことで材料費も減少しました。このことにより、病院事業費用全体で前年度から約2億6500万円減少しました。

平成30年度は、国の診療報酬改定による入院基本料などの制度改正に対応するとともに、新たな加算の算定に取り組みましたが、内科系診療科の医師の減少などにより、患者数、診療収益ともに計画値を達成することができず、結果として不良債務が増加することとなりました。

今年度も引き続き、市民及び近隣住民に持続可能な医療を提供できるよう職員一丸となって経営改善を進めます。

☎ 詳細
382-5151
市立病院管理課財務係

平成30年度の決算と前年度の比較増減

区分	平成30年度	平成29年度	比較増減
病院事業収益	57億9,300万円	65億500万円	-7億1,200万円
病院事業費用	69億3,500万円	72億円	-2億6,500万円
単年度純損益	-11億4,200万円	-6億9,500万円	-4億4,700万円

診療報酬改定への対応や新たな加算の算定に取り組み、収益の確保を図ったものの、医師の減少が診療体制に大きく影響し、収益が減少する結果となりました。診療材料の切り替えなどにより材料費を削減することで、費用も前年度より減少しましたが、収益の減少をカバーするには至らず、損失を計上することとなりました。

区分	平成30年度	平成29年度	比較増減
一般会計繰入金	13億8,600万円	13億9,500万円	-900万円
一般会計長期借入金	6億円	なし	6億円
累積欠損金	-101億1,100万円	-89億6,900万円	-11億4,200万円
不良債務残高	14億1,700万円	10億3,800万円	3億7,900万円

救急患者の受入れ、小児・産科医療など、採算性の確保が難しい医療を担っているため、一般会計から繰入金を受けています。また、計画どおりの収益を確保することができなかったため、不良債務及び累積欠損金が増加しました。金融機関からの一時借入金が20億円に達し、返済資金の一部として、一般会計から6億円を借り入れました。

区分	平成30年度	平成29年度	比較増減	
延患者数	入院	6万6,584人	8万213人	-1万3,629人
	外来	14万9,033人	16万4,483人	-1万5,450人
病床利用率	一般	63.1%	70.1%	-7.0ポイント
	精神	39.6%	42.1%	-2.5ポイント
	全体	58.5%	65.2%	-6.7ポイント

入院患者数が大きく減少したことから、病床利用率も前年度を下回る結果となりました。また、外来患者数も減少となりました。

※平成30年10月から1病棟50床を休止。病床利用率は50床を除いて計算

江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会を設置

江別市では、地域医療において市立病院が担うべき役割や経営安定化に向けた検討を行うため、市民、医療関係者、学識者などで構成される「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」を設置し、8月16日(金)に第1回委員会を開催しました。

委員会の開催予定及び結果については、市立病院ホームページ(<http://www.ebetsu-hospital.jp/>)にてお知らせします。

